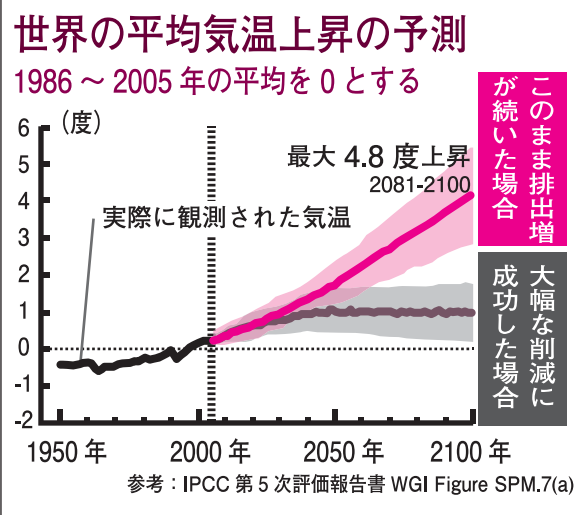


IPCC第5次評価報告書統合レポート

3つの作業部会の内容をとりまとめ 内容や伝え方について学ぶ

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第40回総会(10月27日～31日、於デンマークコペンハーゲン)において、IPCC第5次評価報告書統合報告書が採択され、政策決定者向け要約(SPM)が承認公表された。

統合報告書は、①観測された変化及びその要因、②将来の気候変動、リスク、影響、③適応、緩和、持続可能な開発に向けた将来経路、④適応及び緩和の4つの主題のもと、3つの作業部会の内容を横断的にとりまとめている。統合報告書で述べられているポイントは次のとおり。



◆**観測事実**
温暖化は疑う余地がない。世界の平均気温は、産業革命以降に0.85度高くなっている。

◆**温暖化の原因**
二酸化炭素、メタン、酸化二窒素の大気中濃度は、少なくとも過去80万年で前例のない高い水準に達している。人間の影響は、20世紀半ば以降に観測された温暖化の主な原因であった可能性が極めて高い。

◆**極端現象**
1950年頃から極端な低温の減少、極端な高温の増加、極端な海面水位の上昇を含む極端な気象や気候の変化を観測。いくつかは人間の影響と関連している。

◆**予測される変化**
評価したすべての排出シナリオで、今世紀中は気温が上昇すると予測されている。今世紀末の気温上昇は0.3～4.8度になる可能性が高い。今世紀末に海面水位が26～82センチ上昇する可能性が高い。

◆**長期的な変化**
人間による温室効果ガスの排出を止めても、関連する影響は何世紀にもわたって続くだろう。温暖化の規模が大きくなれば、急激で不可逆的な変化が起こるリスクは大きくなる。

◆**リスクの軽減**
現行を上回る追加的な削減策が取られなければ、今世紀末までの温暖化は、深刻で広範囲にわたる不可逆的な世界規模の影響をもたらすリスクが「高い」レベルから「非常に高い」レベルに達するだろう。

◆**適応策の特徴**
適応策はリスクを減らすことができるが、温暖化の程度がより大きく、速度がより速い場合には有効性に限界がある。

◆**削減策の特徴**
気温の上昇を2度未満に抑制する可能性の高い削減の道筋は複数ある。2050年までに温室効果ガスの排出を2010年比で40～70%減らし、今世紀末には排出をゼロかそれ以下にすることが必要だ。

最新鋭胸部デジタルX線検診車導入 結核や肺がん早期発見へ貢献

予防医学事業中央会広島県支部である当協会は、このたび、予防医学事業中央会が本年度の日本宝くじ協会の助成を受けて整備した胸部デジタルX線検診車「宝くじ号」の貸与を受けた。

この検診車は、最新のデジタル装置を搭載して、より鮮明な高画像撮影で結核や肺がん検診を行うことができるほか、胸部X線を低線量で撮影するため、安全安心な構造となっている。

年明けから巡回検診を始める予定。高齢者の多い中山間地や離島をはじめ、県内各地を巡回検診することで、多くの人のがんの早期発見に役立てたい。

助成に対する詳細は日本宝くじ協会(<http://jla-takarakuji.or.jp>)で。問い合わせは(公財)予防医学事業中央会03-3268-1800へ。



貸与を受けた検診車

「IPCCレポート」ミニセミナー
12月7日、脱温暖化センターひろしま主催

高い削減の道筋は複数ある。2050年までに温室効果ガスの排出を2010年比で40～70%減らし、今世紀末には排出をゼロかそれ以下にすることが必要だ。

◆**削減策**
すべての主要分野で、削減策は存在する。費用対効果の高い削減策は、エネルギーの消費削減や効率改善、エネルギー供給の脱炭素化、森林などの吸収源の強化などを組み合わせた統合的な取り組みによる。



講義を受ける受講者

「IPCCレポート」ミニセミナーに中国四国地域の地球温暖化防止活動推進員や気象キャスターなど35人が参加し、レポートの内容や伝え方について学んだ。受講生は、環境省が提供する教材を活用して、ミニセミナーとして活動する。

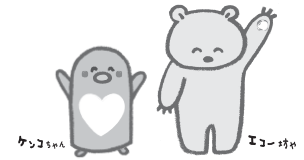
お詫びと訂正 11月26日発行の号外号2面に、次のとおり誤りがございました。関係各位にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

正: 大竹小学校2年 小田 詩音 誤: 大竹小学校2年 小田 誌音

実践活動に活用を
気候変動が人間活動に起因することが明確になり、気候変動の程度や影響、対策についても、世界的なものから地域ごとの取り組みまで、さまざまなレベルで議論が活発になっている。IPCCのレポートを活用し、国や県の施策を理解し、地域の取り組みを具体化する助として支援していく。

当協会は引き続き、公衛協や地球温暖化対策地域協議会、地球温暖化防止活動推進員の脱温暖化のまちづくりを支援していく。

平成26年度 地区衛生組織活動資金募集



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成26年度で55回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)
53,768,077

市町名	募金額(円)	達成率(%)
呉市	8,041,270	143.6
府中町	1,521,700	138.4
海田町	2,460,345	397.6
熊野町	1,419,760	271.9
坂町	346,952	121.2
江田島市	1,972,950	301.9
竹原市	1,755,800	272.8
大崎上島町	0	0.0
大竹市	2,586,750	404.7
廿日市市	2,611,910	165.1
廿日市市佐伯	433,121	177.4
廿日市市吉和	0	0.0
廿日市市大野	2,494,500	429.2
廿日市市宮島	208,600	456.0

市町名	募金額(円)	達成率(%)
安芸太田町	741,550	443.1
北広島町	677,200	161.9
安芸高田市	2,078,200	315.5
東広島市	4,289,516	109.3
三原市	1,524,545	69.7
世羅町	848,160	246.1
尾道市	3,177,800	98.4
福山市	8,851,885	89.4
府中市	1,119,802	127.7
神石高原町	0	0.0
三次市	2,201,982	185.1
庄原市	2,327,430	291.3
その他	76,349	-
合計	53,768,077	146.7

Q. 公衛協の募金はどんなことに使われているの?
(地域リーダー養成・育成事業)

A. 次のような事業があります。

- 基礎研修(新規の推進委員を主対象とした研修)
- 専門研修(広報・ツールづくりコースなど)
- 合同研修(環境保健夏季大学など)

★市町を越えての体験交流(海田町・大崎上島町)

大崎上島町開発センターで、意見交換やお互いの活動報告を行い、その後、町内視察を行った。



市町別一覧表(平成26年11月末現在)

※この表は、平成26年11月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。